

上神明 天祖神社 報

第185号 平成25年1月1日



社頭所感

天祖神社宮司 齋藤篤信

天地の恵みをいただいて

あけましておめでとうございます。

この世に生きる全てのものは、天地の恵みによって生かされ、神々のご守護によって生活を営んでいます。即ち、お伊勢さまの「天の恵み」と氏神さまの「地の恵み」とが、あたかも車の両輪のごとくにひとつとなつて、より尊いご神威があらわれ、より一層のご守護をいただけるのです。ですから、私たちはお伊勢さまと氏神さまのお神札をおまつりして、国の隆昌と家庭の幸せをお祈りするのです。

伊勢神宮は、三重県伊勢市に鎮座の皇大神宮（内宮）と豊受大神宮（外宮）を中心に近在の百二十五のお社から成り立っています。皇大神宮は、天照大御神さまをおまつりし、「日本人の心のおふるさと」と親しまれております。

皇室の御先祖の神さまであり、また私たち国民の総氏神さまでもあります。

その広大無辺のご神徳は、太陽にたとえられ「天の恵み」と仰がれております。

氏神さまは、日本全国津々浦々に地域住民の心の拠り所として、おまつりされています。

明けまして

おめでどういぎいます

天祖神社氏子総代会々長

草柳 洋一

平成二十五年の新春が清々しく明けゆくことを、深い感謝の念で迎えています。

新年を迎えて政情も定まり、国内の経済開発並びに世界の動向に日本国がいかに対処すべきかが問われる年であります。今年の干支は癸・巳(みずのと・み)ですが、これからの時代を大きく変える出来事が起こる「十二年周期」の年に当たります。過去の史実を紐解きますと、「日露戦争終結」・「ロシア社会主義革命勃発」・「世界大恐慌」・「太平洋戦争勃発」・「スターリン没落」・「証券恐慌発生」・「中国文化大革命終焉」・「ベルリンの壁崩壊」・「アメリカ同時多発テロ発生」に到るまで、十二年ごとに大きな出来事が起きています。

平成二十五年は天皇が即位して、四分の一世紀が過ぎることになりますが、時代は大きく変わって参りました。世界の冷戦が終結し、アジアの急成長と共に中国の台頭から領土問題に至るまで、又、日本では未曾有の大震災に見舞われた事後対策問題など、新たな時代の問題が山積みされています。内外の経済事情も決して楽観できる状態ではありませんが、皆様と共に今年的情勢を見守ってゆきたいと思えます。

日頃は、氏子の皆様には崇敬の念あつく、神社の諸行事にご協力いただきますこと、重ねて深く感謝申し上げます。今年の巳の年にちなんで神社に祀られてあります「厳島弁財天」が月刊誌「冬・Walker」に見開きで紹介されました。東京都内で蛇を祀る神社は上神明天祖神社の「厳島弁財天」だけだそうです。テレビでも紹介されるそうで、新年の放映時間は別欄に記載されています。ご覧下さい。

八月には伊勢神宮の二十年に一度の「式年遷宮祭」にバス旅行で参加することになります。又、九月のお祭りは、神明天祖神社が江戸初期に御霊分社して以来「二百七十年」に当ります。上神明天祖神社と下神明天祖神社の十二町会による合同祭典が挙行されます。日本の伝統ある神聖な祭典に、皆様お誘い合わせのうえ宜しくご参加くださいますようお願い申し上げます。厳冬の折柄、ご尊家各位のご清祥を祈念申し上げます。

お知らせ

一月十九日(土)十二時〜十三時三十分放送、日本テレビ「メレンゲの気持ち」という番組で石ちゃんこと「まいう」の石塚英彦さんが弁財天にお参りをされた映像が放送される予定です。是非ご覧下さい。

初詣は上神明天祖神社へ

「蛇窪の神明さま」と親しまれ、白蛇をお祀りしている当社の弁財天が「冬・Walker」首都圏版に初詣特集のトップページ一面に掲載されました。

白蛇の御利益は清浄な心と優しさを授け、幸運を招くといわれております。

本殿奥にある弁財天は天祖神社建立より以前からある蛇窪龍神社(一三二二年鎌倉時代以前の創建)を称え、当社に伝わる白蛇録起(鎌倉時代)により祀られた靈験あらたかな神さまとして広く崇敬されております。地元の守護神として「地主弁天」とも呼ばれております。

「蛇窪詣」身役授け

清浄なる特別なお祓いをうけて弁財天にお参

りいたします。予約受付いたしております。

初午祭の御案内

今年の初午祭は二月九日(日)午前十一時より執り行われます。初午祭は二月の最初の午の日に行う行事であり、お稻荷様の祭りとして全国的に執り行われています。

お稻荷様は早くから農業神、商業神などの神として信仰されているばかりでなく、広く開運の神ともされております。この季節は春の農事に先がけて農作を祈願する行事も各地で行われます。

当社では儀式終了後、直会の後、抹茶(呈茶)の接待がございます。お点前は、豊町六丁目表千家 西澤社中の方々によります。

皆様のご参列をお待ち申し上げます。

宮司

第六十二回伊勢神宮式年遷宮

式年遷宮の制度は、今から約一三〇〇年前に第四十代 天武天皇がお定めになり、次の第四十一代 持統天皇の四年(六九〇年)に皇大神宮の第一回目の御遷宮が行われました。

神宮の式年遷宮は、神宮の「唯一神明造」がいつでも新しく、いつまでも変らぬ姿を求めて二十年ごとに造り替えることにより、永遠をめざしたのです。

神宮が新しくなることで大御神のより新しい大御稜威をいただき日本の国の「いのち」を新鮮にして日本全体が若帰り永遠の発展を祈るのです。

今年伊勢神宮式年遷宮白石もち行事に参加するための、初詣バスは行われません。

宮司

平成 25 年の厄年(数え年)

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2才、誕生日後には1才を加えた年

	前 厄	本 厄	後 厄
男の厄年 大厄42才	24才 平成2年生 午(うま)	25才 平成元年生 巳(へび)	26才 昭和63年生 辰(たつ)
	41才 昭和48年生 丑(うし)	42才 昭和47年生 子(ねずみ)	43才 昭和46年生 亥(いのしし)
	60才 昭和29年生 午(うま)	61才 昭和28年生 巳(へび)	62才 昭和27年生 辰(たつ)

	前 厄	本 厄	後 厄
女の厄年 大厄33才	18才 平成8年生 子(ねずみ)	19才 平成7年生 亥(いのしし)	20才 平成6年生 戌(いぬ)
	32才 昭和57年生 戌(いぬ)	33才 昭和56年生 酉(とり)	34才 昭和55年生 申(さる)
	36才 昭和53年生 午(うま)	37才 昭和52年生 巳(へび)	38才 昭和51年生 辰(たつ)

※近年は、女61歳の還暦も男女共通で厄年とする場合もあります。

初詣

一月一日午前〇時より午前一時位まで

- ・ 御神米と御神酒の授与
- ・ 甘酒の振る舞い(限りがございます)
- ・ 神輿総代連合会有志による奉仕が行われます
- ・ 古神札お焚き上げ

荏原消防団第四分団の皆様のご御奉仕で行われます。

皆様のご参拝を心よりお待ちしております。

菊花のご奉納

二葉四丁目在住の富田秀雄様、登美子様御夫妻より今年も一年間丹精こめてみごとに開花させた菊の鉢をご奉納下さいました。

七五三詣りの方々は、社殿の前で美しい菊花

年間の行事

一月 一日	歳旦祭	五月 五日	端午の節句
二月 三日	節分祭	六月 三十日	大祓
九日	初午祭	九月 未定	例大祭
十一日	建国記念日	十一月十五日	七五三
十七日	祈年祭	二三日	新嘗祭
三月 三日	ひな祭り	十二月三十日	大祓
四月十四日	弁財天祭り	三一日	除夜祭

を背景に記念写真を撮っていらつしやいました。

月次祭

毎月一日午前七時より、その月の氏子の皆様の家内安全を祈る月次祭を行っております。参列者全員で「大祓詞」を奉唱し、社務所において「朝粥」を食し歓談いたします。

★十一月一日に参列なさった方々のご芳名
 草柳洋一様、矢羽直公様、金子省太郎様、磯 昭夫様、富田登美子様、高須みちよ様、野秋くに様、青柳富子様、吉川トミ様、柵木ヒサ様、井淵良子様、岡本佳代様

★十二月一日に参列なさった方々のご芳名
 草柳洋一様、草柳緋紗子様、金子省太郎様、松永吉洋様、高須みちよ様、富田登美子様、野秋くに様、柵木ヒサ様、青柳富子様

七五三詣り御芳名

原 乙世 松本 瞬

各地区敬老クラブ境内清掃奉仕

今年七五三詣りに御祈禱なされたお子様のご芳名を列記し心からご成長をお祈り申し上げます。

敬称略

山崎 双龍	森 りりあ	竹内 優翔
川口 千穂	平出 真菜	齋藤 琉生
犬童 詩音	関口 詩乃	浜崎 深月
板井 優	永田 揮一	齋藤ひより
鈴木 郷介	永田 莉子	千葉 優愛
相澤 結菜	三浦 雅貴	熊澤 心陽
伊藤 心美	三浦 加菜	数井 瑞樹
山岸 小春	金丸 央流	吉田 結
大嶋芳映奈	田口琥太郎	加地保乃香
産形 百花	俣田 真依	中野 更紗
坂本 優奈	安達 藍	石井 もも
池谷 文希	松田 凌	八塩 晴登
池谷 文杜	佐々木杏奈	野口 圭佑
池谷 文那	渡辺 絵蓮	
岸部 美雨	佐々野青菜	
田中 悠人	平野 将悟	
田中 奈都	平野 心瞳	
芝好来留実	佐藤 陽翔	
須藤 公介	佐藤 果萌	
工藤 琉真	青野 楽那	
長島美津妃	初谷 響	
長島菜々美	荒井万由里	

毎月十日朝各地区老人クラブの方々による境内清掃奉仕が行われております。今月は落葉の季節で大変で十日と二十日の二回行われました。誠に有難うございます。

十一月十日にご奉仕なされた方々のご芳名

二葉三丁目 中島千恵子様、川島美代子様
 戸越六丁目 平本イマ子様、角木千鶴子様
 二葉四丁目 田母神英子様、渡辺 秀子様
 豊町六丁目 平澤 晴雄様、芳賀 明美様
 豊町五丁目 皆川 茂様、小澤 百男様

十一月二十日にご奉仕なされた方々のご芳名

豊町六丁目 小俣ヨシエ様、春野 フミ様
 二葉四丁目 西村アサノ様
 戸越六丁目 広瀬ひろ子様、長倉 康子様
 豊町五丁目 千葉 昭夫様

十二月十日にご奉仕なされた方々のご芳名

豊町五丁目 小野ヨシ恵様、森谷ミツ子様
 豊町六丁目 橋本 妙子様、藤沢喜美子様
 二葉三丁目 庄田 アヤ様、杉本登久江様
 二葉四丁目 片岡 トミ様、小島 幸子様

生命の言葉(一月)

ふる雪にこころきよめて安らけき
 世をこそいのれ 神のひろまへ

昭和天皇
 降る雪に心清めて、世の中が安らかであれと心をこめて祈ろう、神様の御前にて。

昭和天皇(しょうわてんのう)
 一九〇一—一九八九年、昭和六年「社頭雪」と題して歌会始に詠まれた御製。この年の六月には満州事変が勃発。世の中に不穏な空気が立ち込める中で、ご神前にて世の中国平安を祈られた御製。
 以前の時代も、新年には心を清めて神さまの前で手を合わせ世界を祈りました。

落葉の季節境内清掃に励む方々

十一月、十二月、特にこの季節は毎日の清掃が大変です。
 神社前に在住する杉浦さき様は、毎朝鳥居前の道路からはじまり境内をきれいに掃除して下さいます。
 又、豊町五丁目在住の野秋クニ様、西大井在住の菅野ゆり子様、そして二葉四丁目在住の白土政江様は連日境内清掃に励んで下さいます。
 皆様のそのご奉仕に対し深く感謝の意を表します。
 宮司 拝

〒一四二—〇〇四三

東京都品川区二葉四—四—十二

天祖神社々務所

TEL 〇三(三七八二)一七一—
 TEL 〇三(三七八二)一七一—
 FAX 〇三(三七八二)一七一—